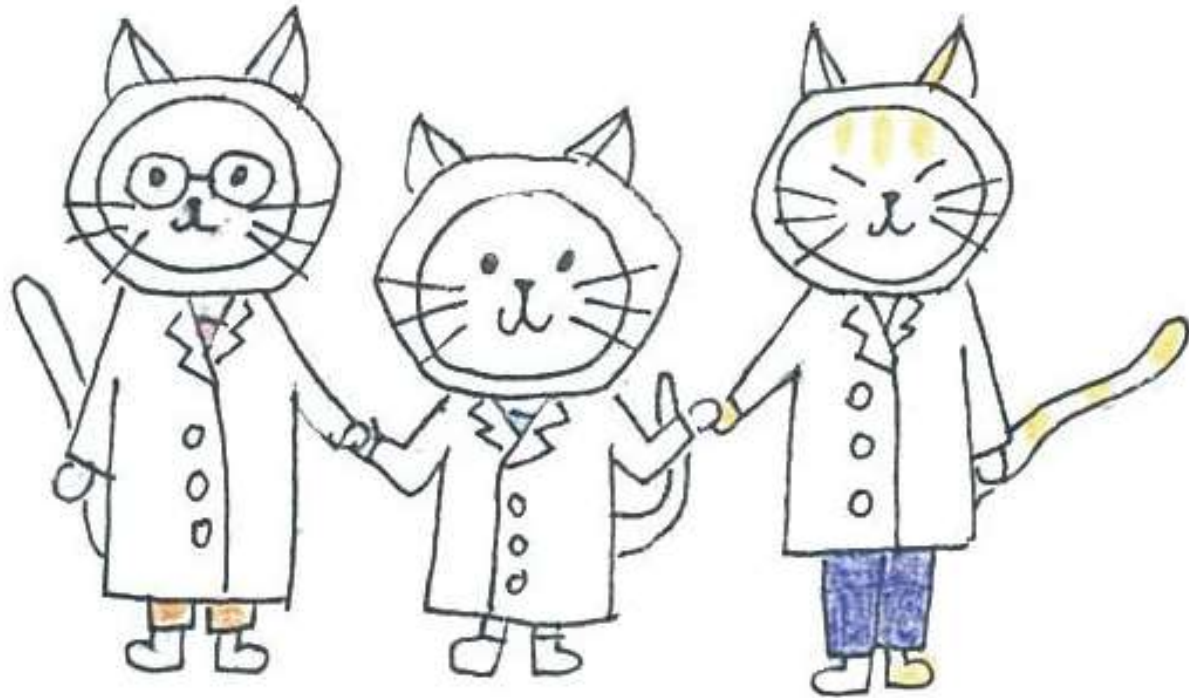



3分で分かる 「オープンアクセス」紙芝居



制作協力：兵庫教育大学附属図書館
イラスト：大阪府立大学学術情報センター図書館

2011年3月、本学の 猫野教授 が
世界にインパクトを与える論文を発表しました。

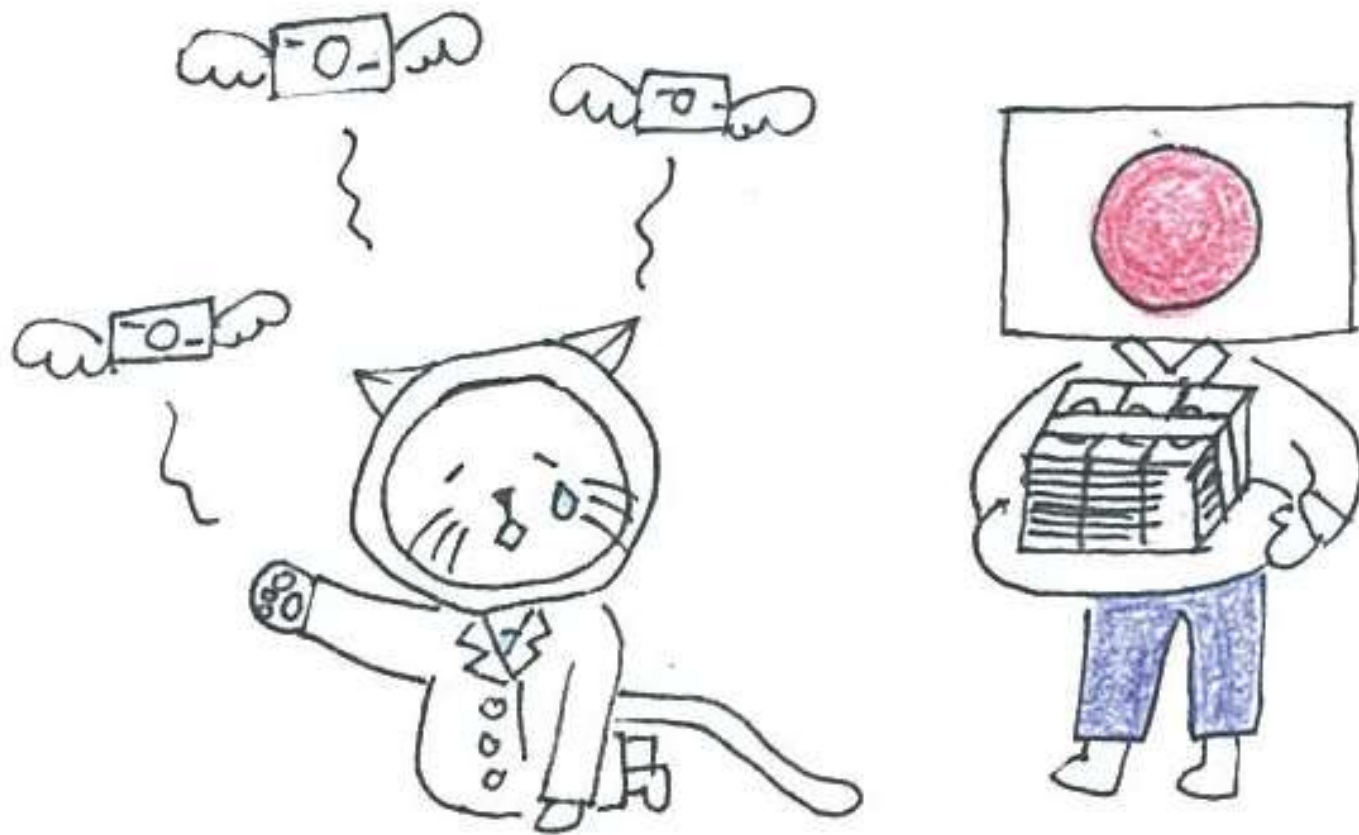




トンビにタカを産ませることに
世界で初めて成功!!!

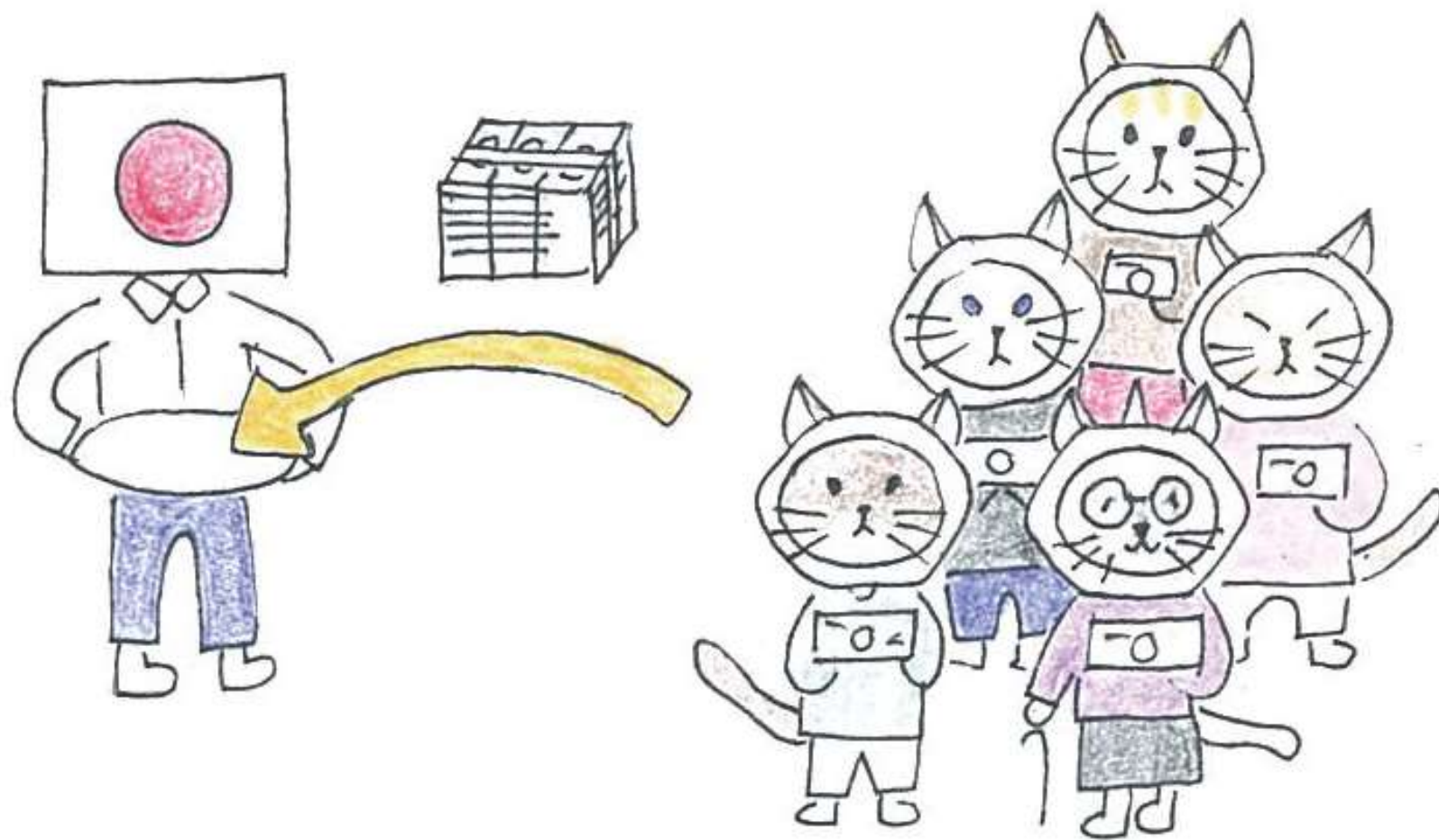
※ 実在する論文ではありません。

「研究」というものは、とにかく お金のかかるもの。

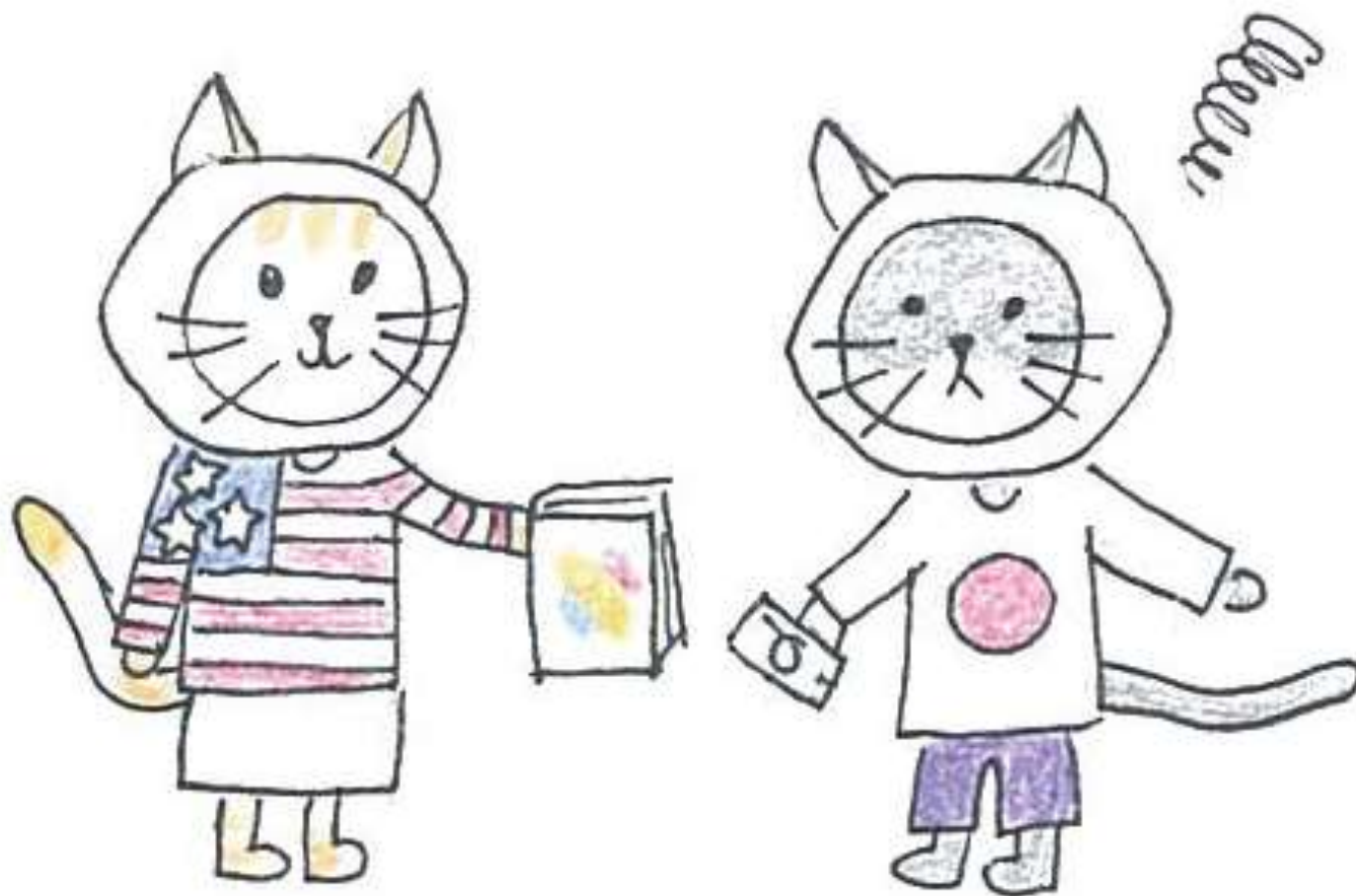


今回の研究は国からのお金でおこなわれました。

ところでこのお金はもともとはわたしたちの税金。



しかし私たちがこの論文を読むには、またお金が
要ります。この論文が掲載された米国の学術雑誌
はタダでは読めないのです。



大学などの研究機関は、そこで働く研究者のために
たくさんの学術雑誌を購読しています。
その料金は年々上がり続け、資金力の乏しい機関は
費用がかさみ苦勞しています。



たとえば今回の論文が載った雑誌は本学では購読していないので、猫野教授も研究室の学生もこの論文を読むことができません。



日々多くの研究論文が発表されていますが、そこに
辿り着くにはお金がかかることがほとんどです。
この問題がだんだん深刻になってきました。



評判の高い雑誌に論文が載ることは、
研究者のモチベーションにつながります。



このこと自体に問題はありません。

問題は、そういった評判の高い雑誌の値段が高くなってしまい、限られた人しか読めなくなってしまったこと。



雑誌のブランド力を盾に、高い値段で
販売する商業出版社に対し、



「研究成果」を研究者自身
の手に取り戻そうという
運動が熱を帯びてきました。

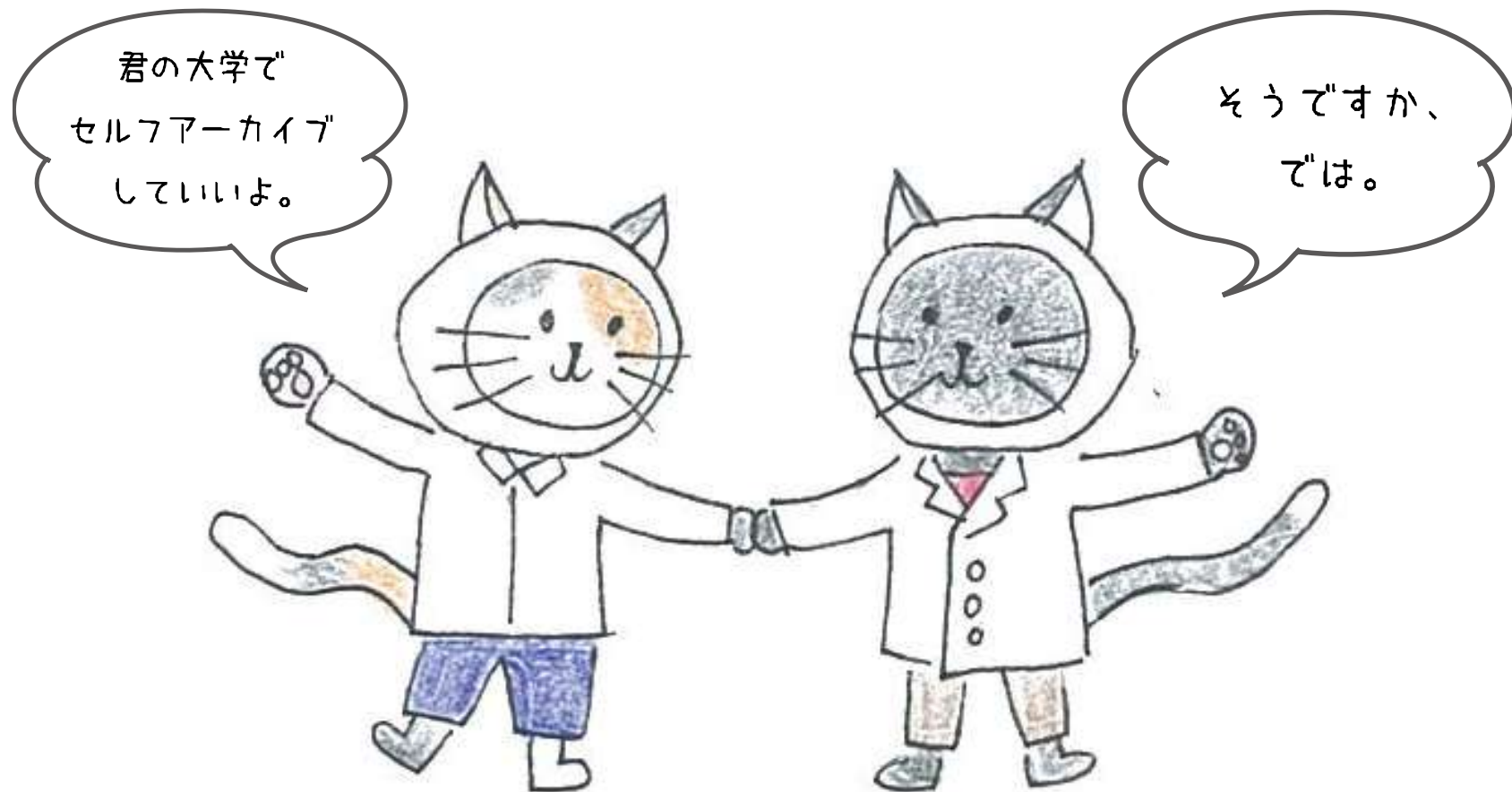
それが「**オープンアクセス運動**」です。

オープンアクセス運動とは、
ネットを介して、学術論文等への無料アクセス
を実現する運動です。

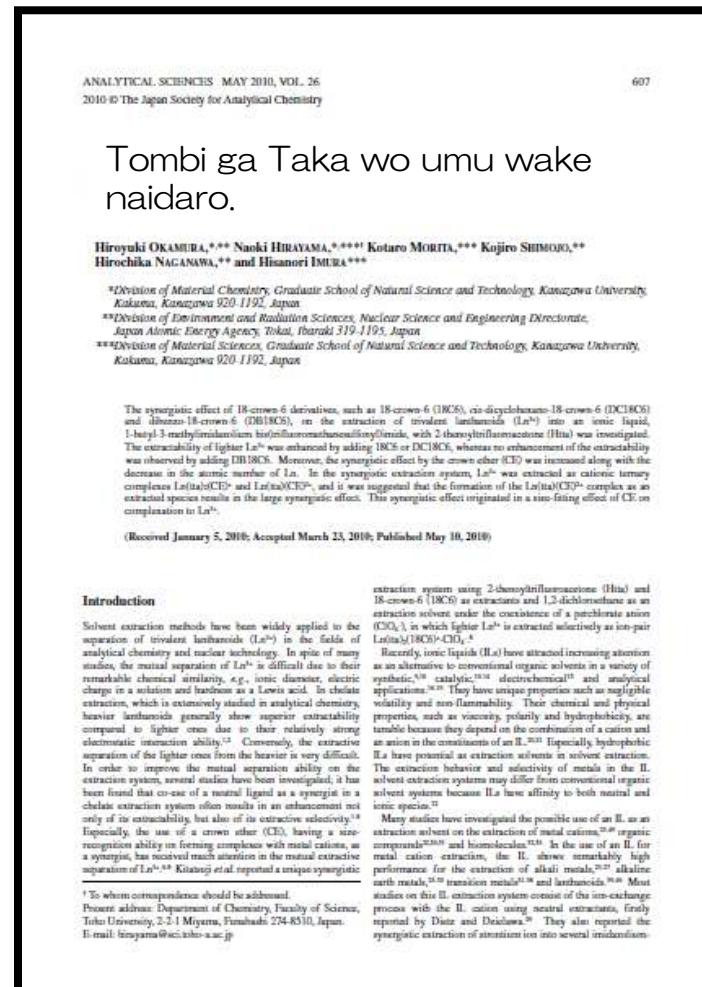
方法としては、次の2つに大別されます。

1. **ブランド力のある無料オンライン雑誌の創刊**
2. **セルフアーカイブの推進**

この流れを受けて、多くの出版社が、著者が自分の論文を所属機関のサーバなどにアップ(セルフアーカイブ)して、無料で公開することを認めるようになってきました。



猫野教授は、この論文を本学の 学術情報リポジトリOPERAに登録しました。



これにより、世界中の誰もが、
この論文を無料で読むことが
できるようになりました。

※ 実在する論文ではありません。

近年では・・・

● **国の施策**として

「**公的研究資金による論文**については、
原則公開とすることを第5期(2016-2020)科学
技術基本計画期間中に**実行すべき**」

「**学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)**」

平成28年2月26日 科学技術・学術審議会 学術文科会 学術情報委員会

→ **科研費実績報告書**に研究成果を
「**オープンアクセス**」しているかどうかの**チェック欄**が出現

さらに、**新たな視点**で・・・

● **大学の説明責任**を果たす場としての**リポジトリ**

本学にご所属で、学術成果の
ネット公開を検討されている方は、
学術情報室リポジトリ担当まで、
ぜひご連絡ください。

TEL: 072-254-8114
e-mail : repo@ao.osakafu-u.ac.jp